

## 周術期等口腔機能管理を受けられる方へ

手術・抗がん剤治療・放射線治療を受ける前に  
歯科でお口のケアをしましょう！

お口の中には多数の細菌が生息しています。その細菌が、手術や抗がん剤治療などで体の抵抗力が弱った時に、肺炎や重度の口腔粘膜炎など、いろいろな合併症を引き起こしてしまうことがあります。

そのため、お口の中の細菌をできるだけ少なくしておくことがとても大切です。

自分で歯磨きしているつもりでも、実際には多くの菌垢(細菌の塊)を残しています。また、歯がない人も入れ歯や舌にも細菌が存在しています。



歯石



むし歯

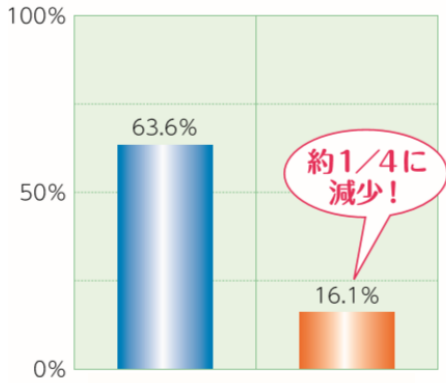
したがって、手術・放射線治療・抗がん剤治療などを受ける際には、あらかじめ歯科で専門的な口腔ケアを受けて、お口の中をできるだけ良好な状態にしておくことが合併症のリスクを軽減するために必要です。



### 歯科で行う専門的な口腔ケア

- 口腔内クリーニング  
(ブラッシング・舌の清掃・機械的歯面研磨・歯石の除去)
- ブラッシング指導  
(自分でしっかりと磨けるように、磨き方や補助用具などの指導を行います。)

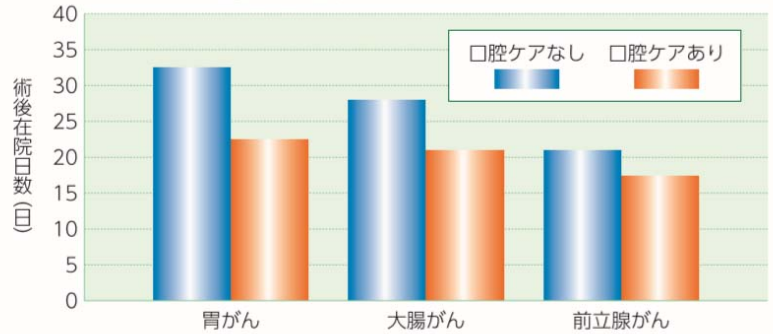
口腔ケアの有無による  
術後合併症率の比較



大田洋二郎 歯界展望 (2005),  
106(4): 766-772. を一部改編

●入院期間が  
短縮される

下の図は、がん患者さんに対して手術前と手術後にお口のケアを行った場合、行わなかった方と比較して、入院日数が短縮したことを示しています。



大西徹郎 看護技術 54 (2005) を一部改編

日本歯科医師会HPより引用

手術（全身麻酔）の場合

手術前に専門的な口腔ケアを受けた人は、手術後の合併症（肺炎など）が少なく、入院の日にちも少なくなったという報告があります。さらに手術前の処置として、麻酔の時に歯が傷ついたり欠けたりするリスクを軽減させるために、動いている弱い歯の抜歯や固定処置、保護用のマウスピースを作ったりします。

抗がん剤治療の場合

抗がん剤の副作用によって、お口の中の感染症（重度の口腔粘膜炎、カンジダ症など）や出血、むし歯や歯周病の悪化、さらには使用の薬剤による顎骨骨髄炎、顎骨壊死などが起こりやすくなります。治療を受ける前から専門的な口腔ケアを開始し継続すれば、これらの合併症の重症化を予防することができます。

放射線治療の場合

特に頭頸部の放射線治療を受けると、口の粘膜や唾液腺、さらに顎骨損傷を受けて口内炎、口腔乾燥、むし歯の多発、顎骨の壊死などが起こりやすくなります。抗がん剤治療の場合と違って、一度ダメージを受けた顎骨は回復が難しく、抜歯の後で骨髄炎を発症するリスクが続くので、状態の悪い歯はできるだけ治療の前に処置しておくのが安全です。